



# 第13回



# まちづくり推進会議

平成28年5月1日 発行

平成28年3月23日（水）18：30～20：55 委員出席者数～24人 事務局出席者数～19人

## ◆第6次訓子府町総合計画について

新総合計画策定の基本的な考え方や町民アンケート調査の結果に関する資料により説明を行った後、意見交換を行いました。

### ○主な質疑・意見は次のとおり

A委員：アンケート調査で共同墓地をつくってほしいと回答している方がいるが、町内会の集まりの場でも、年を取ってきた子どもが遠くへ行ってしまって、お墓を建てても誰も見てくれずに荒れ果ててしまうのではないかという話を聞くことがあります。そういう意味では、共同墓地をぜひつくっていただきたい。

町長：実はこの件については、12月の議会でも議員から質問がありましたが、町としては、現状はよくわかるので、できるだけ早く共同墓地の建設に向けて前向きに検討していくという話をしています。北見市や網走市などで実施していますので、参考にさせてもらおうと思っています。おそらく、総合計画の中にも記載することになると思います。

B委員：アンケート調査で「若い人が働ける職場」が必要と回答した方がいるようですが、どこの町でも、良い企業が来る市や町には必然的に人が集まると思います。訓子府には、少なくとも20年前ぐらいから大きな企業は入っていないと記憶しています。そのため、いかに若い人が働ける職場を確保するかということが重要なことだと思っています。

町長：新しい企業を誘致するというのは、どこの町でも非常に大変なことだと思っています。企業を誘致した近隣の町の町長に話を聞きましたが、雇用の多くはパートが多く、期待していたほどの雇用がないという状況もあるそうです。そこで本町では、地元の既存企業に雇用を増やしてもらおうという取組をしています。また、そのほかにも地元企業に町外から通勤されている方の子どもを4月から認定こども園で受入れ可能とするなど、今ある企業を積極的に支援しています。



C委員：役場の職員は訓子府に住んでいるが、民間企業の方は北見に住んでいる方が多い。民間企業の方も、全員訓子府に住むということになれば、かなり人口が増えると思います。町からそうしてくださいとは言えないのかも知れませんが、そういうことも大事ではないでしょうか。

町長：実は、今、訓子府で1番困っていることが住宅不足です。町外の方で訓子府に住みたいという方も増えている状況もあります。町営住宅は、収入が多い世帯は入れないという問題もあります。そこで町では、空き家対策なども実施していますが、今回、訓子府高等学校の教員住宅の2棟5戸を購入することにしました。そこには、収入の額に関係なく入居してもらおうという考えです。また、民間の力を借りた住宅確保も今後検討していかなければならないと思っています。

D委員：新年度の予算案を見ると、高齢者や子どもが優遇されている予算組みだと思います。それに加えて、障害を持った小学生や中学生のいる家族が増えていますので、将来的にそのような家族が訓子府で安心して暮らしていける状況を今からつくっていかねばならないと思います。また、この町で就職、就農して家族を形成し、子どもを産み育てられる環境を構築していくというのは大前提ですが、今、稼働年齢層は苦しい状況です。障害を持っていたり、福祉サービスを受けたりしなければならない子どもを持ちながら、住宅ローン、自動車ローン、日用生活費、高騰する光熱費、さらには学費や保育費などを考えると、高齢者よりもそういった家族の方が社会的弱者だと思います。ですから、例えば子育て世帯の給付を増やす仕組みなども考えていただきたいと思います。

E委員：スーパーができて大変便利だと思っていますが、農業の分野では弊害も出ている。スーパーがパートを雇うことで、春や秋の出面さんの確保がより難しくなっている気がします。私たちは、期間的にしか雇えないのでなかなか人が来てくれない状況です。そのようなところも、何か考えてもらえたらと思っています。

F委員：資料の中に人口減少対策として結婚支援があげられていますが、訓子府では農家や商工関係の方で年を取っても結婚していない人が結構いると思います。アンケートを見ると、町外から結婚を機に訓子府に来たという人が多い結果となっているので、若い人を呼び込むようなことをするのはどうでしょうか。そんなにお金をかけないで呼ぶのであれば、企業誘致などは難しいでしょうから、資料にも記載がありますが、お見合いパーティーをやるのがいいのではないのでしょうか。きれいな公民館があるのだから地元でやってみたらいいと思います。それが一番簡単にできると思います。

農業委員会事務局長：農業担い手対策推進協議会では、農業後継者の育成や花嫁対策を実施していますが、その中で農協青年部が実施している合コンにも支援しています。現在、協議会としても合コンを企画してはどうかという意見も出ていますので、今後実施するかどうかについては、話し合っていきたいと思います。

町長：平成27年度に農業後継者で結婚したのは2組だけでした。これはかつてない少なさです。農協青年部で実施している合コンや札幌の結婚相談所で実施しているお見合いパーティーにも参加していますが、なかなかうまくいっていません。ですから、いよいよ何かやらないといけないのかなという状況です。

G委員：存続が危ぶまれている訓子府高校が3年生が20人、2年生が19人、そして今年の新入生が40人と聞いてびっくりしました。どうしてかと聞いたら、教科書代、バス代、制服代などが出るし、給食も出るといった支援策があり、それでこれだけ戻ってきたということです。町はいろんな事業やってきていますが、今回の訓子府高校の支援については、いきなり倍の人数が訓子府に帰ってきたという成果が出たのがすごいなと思いました。今回は、高校のお話でしたが、今後いろいろな事業の参考になるのかなという気がしています。

H委員：この状況は、来年も続くのでしょうか。

教育長：町が訓子府高校の存続対策として長く続けてきた支援策がオホーツク管内一の入試受験倍率である1.2倍という結果となり、定員数と同じ40人の入学に結びついたのではと考えています。来年もこの状況が続くかどうかについては、地元や北見市の中学校の卒業生数によって変わってきますので、今の段階ではわからないという状況です。

H委員：受験生が増えたのは、本当にいい傾向でびっくりしました。



町長 : やっぱり手厚い支援ということもありますが、何よりもこの5年間、就職・進学率が100%だということもあると思います。これはすごいことだと思います。また、挨拶がよくできる素敵な学校であることも訓子府高校に行ってみようかなという気持ちにさらに拍車を掛けたのではないかと思います。それは生徒の努力もあるし、学校の先生方の懸命な努力もあると思います。最近では、本町や近隣の町の役場に就職する生徒も出てきており、役場を受験するための指導なども充実しています。これらも含めたみんなの努力がこういう結果に到達する要因となったのではないかと思います。

## ◆スポーツセンター基本構想について

スポーツセンター基本構想に関する資料により説明を行った後、意見交換を行いました。

### ○主な質疑・意見は次のとおり

D委員：スポーツセンターが耐震基準を満たしていないということは、私たち町民としては初めて知ったという状況です。説明を受けて非常に危険な建物であり、老朽化も進んでいるということは十分に分かりました。ただ、認定こども園を建てるのに十数億円を使ったばかりで、これを建てるにも十数億円かかると思います。続けて実施することは財政的にどうなのかなと思います。実施するのであれば、半分ぐらいは基金を積み立ててからではどうでしょうか。災害というのは、忘れたところにやって来ますし、町長というのは町民の安心と安全を守る役割があるということも分かりますが、網走地方気象台が出しているデータを見たところ、震度5強の地震はなかなか来ないと考えられるので、もう少し我慢しながら財政状況を見ながら考えたほうが良いのではというのが私の考えです。

I委員：町民が健康でなければ、何をしても活気がない町になってしまいます。私は、訓子府に来て20年ぐらいになりますが、スポーツセンターでいろんな方と知り合って、今ではコミュニケーションが取れるようになりました。そういう面でもとても重要な施設と考えていますし、避難所としても必要だと思いますので、早い建替えを希望します。また、人口も減っていますので、ただ単純にスポーツをするための施設ではなく、いろいろなことができる多目的な施設にしてもらいたいと思います。

J委員：将来的に建て直すことになると思うのですが、代替施設についてはどう考えていますか。

社会教育課長補佐：基本的には学校の体育館をお借りする予定ですが、日中は授業で使っていますので、時間を調整しながら対応することになると思います。夜については、学校開放などで対応していくかたちになります。また、大会などにつきましては、近隣の市や町にお願いしてやっていかなければと思っています。

町長 : 私が9年前に町政を預かった時の町の貯金は約17億でしたが、今は約40億となりました。この前の議会では、今のような施設を建てるとしたら、おそらく12億ぐらいになるかも知れないという説明をしました。もう少し様子を見たらいいのではという意見もあります。確かに財源的な見通しがないと建てられないです。ですから町では、貯金をしています。十数億かかったとしても、半分は貯金から崩そうとしています。また、補助金や過疎債という有利な借金も活用しながら、なんとかできるだけ早く建替えを実施したいと考えています。また、訓子府は活断層が無く安全な町ですが、震度6の地震が来たら、アリ



一部分は倒壊してしまう恐れがあります。町長としては、そういった状況を放置しておくことはできないということで建替えを提案させていただきました。先程、1委員からも意見があったように、福祉的な要素など様々な要素を取り入れていくと、今のスポーツセンターの間取りで良いかという議論もしていかなければと思っています。また、できる限りこのような皆さんの意見をお聞きする場を設けていきたいと思っています。なお、今の予定では、28年度中に基本設計を行い、議論の資料とさせていただき、できれば29年度に実施設計を行い、30年度に建設したいと考えています。

K委員：現在のスポーツセンターは老朽化しているため、あちこち直すのにお金をかけるよりは、思い切って建て替えた方が良いと思います。一番心配なのは財政ですが、今の町長の説明で財源があるということは理解しましたが、できればその関係の資料を提供してほしい。また、貯金があるから使うというのは良いのですが、図書館や公民館などの他の施設を含めた全体の構想がどうなっているのかを説明してもらおうと判断しやすいと思います。

町長：今後は、K委員からご意見があったことを参考にし、財政の問題についても資料を作成し、もう少し詳しく説明をしていきたいと思っています。

L委員：国の耐震基準を満したスポーツセンターを建てて、避難所に指定したとして、どれだけの人数の町民がそこに集って身を守れるのかと考えてしまいます。私たちのように山に住んでいる人たちが、わざわざそこまで来ることになるのだろうかと思います。国は、耐震基準によりお金のかかるシステムをつくろうとしているのかなとも思ったりもします。

町長：やはり国の基準を下回って危険だという公の施設を放置することはできません。もし、地震で施設利用者が下敷きになるようなことがあれば私の責任になります。過度の経費をかける気持ちはありませんが、公の施設だからこそしっかりしておかなければならないと考えています。

## ◆平成28年度の主な施策について、

平成28年度の主な施策を記載した資料を委員に配付して説明を行った後、意見交換を行いました。

### ○主な質疑・意見は次のとおり

L委員：畜産クラスター事業の予算額で1億7006万円との記載があるが、これは訓子府町で支出するお金なのでしょうか。

農林商工課長：その全額について、国からの補助金が充当されます。

※まちづくり推進会議の議案は、訓子府町図書館内「訓子府町まちづくり情報コーナー」で閲覧ができます。